



「横浜市営地下鉄車両」
上永谷車両基地にて 2012年11月10日撮影

【2013年7月号】

▼FMやまびこ	中川 萌	2
△ノートンの映画大好き！	ノートン	7
▼FMやまびこ番外編	小林 邦子	8
△里からのたより	関水 実	12
▼自閉症児の親も一日にしてならず	momoe	16
△本棚から	西尾 紀子	19

◆コラム (山本裕太)	・・・6	◇疑問符だらけの現場用語集	・・・15
◇よこはま三歩 (大石晋平)	・・・14	◆後援会・編集後記	・・・20



訓練から就労までの支援について

ワークアシスト（ジョブコーチ） 中川 萌

ワークアシストは3月まで横浜市営地下鉄の「都筑ふれあいの丘駅」近くで多機能事業所として運営（旧名称：ワークアシストやまびこ）していましたが、4月から横浜市営地下鉄「センター南駅」の近くに移転し、「就労移行支援事業」の単独事業所としてリニューアルオープンしました。

ワークアシストでは、ひとりひとりに応じた職業訓練や企業内訓練を中心に就労に向けた支援を行っています。

今回ご紹介するAさんは、ワークアシストでの物流会社での企業内訓練に参加した結果、その仕事ぶりを評価されて社員として去年採用されました。今回はそのAさんの訓練から雇用に至るまでのサポートについて報告します。

1. ワークアシストでの訓練

Aさんは41才のアスペルガー症候群の男性です。大学を卒業してから一般企業で働いた経験があります。一般求人枠で採用された設計事務所の仕事を2年間続けていましたが、対人関係や職務内容が難しくなり突然自ら退職されました。その後は就職活動をしていましたが採用にはつながらず、長期の在宅生活から相談機関を経て、2011年4月からワークアシストを利用することになりました。

ワークアシストの所内訓練では、スケジュールで決められた作業を淡々とこなし、作業精度も高く、仕事に取り掛かる姿勢は就労可能レベルでした。しかし反面、質問や報告など必要なコミュニケーションがうまくとれず、声も小さく聞き取りにくいという課題となっていました。また、自分の判断で作業を進めてしまい、後になって職員が気づくということもありました。その都度、作業が終わったら報告をするように伝えましたが、適切に質問や報告をすることは難しく、場面によっては職員の前で体を揺らしたまま立ち止まってしまうということもありました。



ワークアシストでのAさん



企業内訓練でのAさん

その後Aさんは、ワークアシストの所内訓練から生協配送センターでの企業内訓練を経て、川崎にある物流会社での企業内訓練へ参加することになりました。この物流会社では、パソコンや電子機器のパーツの梱包作業を中心に訓練に参加しました。細かいパーツ部材から、パソコンのキーボードのような大きな部品まで、様々なパーツをエアパッキンで梱包し箱に入れラベルを貼る作業です。Aさんの仕事の様子は丁寧で作業ペースも早かったため、他の訓練生よりも少し難しい作業にも取り組んでいました。そのため「作業部分」に関しては、従業員からも高い評価を得ていました。しかし自主的に従業員にコミュニケーションをとることがほとんどなく、仕事に必要な質問や報告も職員から促されてやっと行える状況でした。扱うものは配送前の製品のためミスは許されません。不明なことは質問し終了を報告することは、失敗のない作業を継続するための重要な職業課題となっていました。職員はその対応としてその都度メモ書きや指摘をおこない、必要なコミュニケーションが習慣になるように働きかけていました。そして徐々に「職員が支援する場面」では改善が見られたのです。

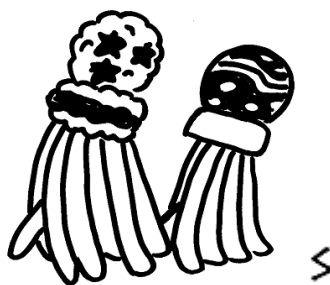
まわりの従業員からもAさんの仕事の習熟度があがっていき、従業員とコミュニケーションがとれている様子を見ていただいていたいました。そのような姿勢が現場責任者からも評価されて、この会社での就職につながりました。

2. ジョブコーチによるアセスメントと支援計画

Aさんの雇用にあたっては、ワークアシストのジョブコーチが支援を行いました。ジョブコーチは、Aさんがこの職場で長く働き続けられるように、より自立して働くための支援と、働きやすい職場環境を作るための支援を職場と協力して進めていきます。

Aさんは訓練場所と同じ会社に就職するため、仕事内容や1日の過ごし方にあまり変化がないように思われます。しかし雇用となると労働時間の延長や、より厳格な時間の管理など周囲の期待度が変わってきます。ましてや訓練と異なりワークアシストの職員でなく従業員に頼ることになるため、実は環境の変化が大きいのです。そのためジョブコーチの支援では「従業員としての視点」に立った職業課題や配慮すべき点を拾い上げなくてはなりません。

そこでジョブコーチが再度、物流会社での作業を実際に体験し、作業の仕方や伝え方、Aさんに作業指示を出す際の従業員の関わり方、休憩時間の過ごし方などの検討を行ったうえで支援計画を設定しました。



支援期間		平成24年10月1日～平成24年12月31日[3か月] (うち雇用前支援：平成 年 月 日～平成 年 月 日)	
職場環境 作業内容		[集中支援期] 10月1日～10月31日	[移行支援期] 11月1日～12月31日
支援事項(支援ポイント)		支援計画(内容・方法・回数・頻度等)	
対象者支援	①業務遂行に関する支援	①作業の理解、精度の維持についてはかなり良好であるため、作業面でのジョブコーチ支援は、他の支援項目に比して、優先順位はそれほど高くないと思われます。ただ、新しい作業に着手する際の効率的な手順等については、必要に応じてアドバイスいたします。	
	②コミュニケーションに関する支援	②イレギュラーな事態が発生した場合、自発的な質問・報告・相談が苦手で、周囲から声をかけられるのを待つ傾向がみられます。このため、質問・報告・相談の内容や言葉づかい、タイミング、誰に伝えるか等について伝えます。また、本人だけでは判断がしづらい事項については、事業所と本人の橋渡し・調整を行います。必要に応じて、質問フォームや連絡ツールの導入について提案致します。	
	③身だしなみ・衣服管理に関する支援	③必要に応じて、身だしなみや衣服管理のアドバイスを実施致します。	
	④訪問頻度	④集中支援期(10月)：ジョブコーチが毎日訪問し、①～③に関わる本人支援、事業主支援を実施致します。本人の自立度に応じて、事業主の了解を得ながら週4～3日、徐々に訪問時間や頻度を減らしていきます。この際、現場従業員の方へ支援進捗を報告し、対応の引き継ぎを行います。 移行支援期(11～12月)：週3～1日訪問を目安とし、支援を実施致します。新しい作業や環境の変更等が発生した場合は、訪問頻度やタイミング等について事業所と相談しながら進めていきます。	
事業主支援	①障害特性の伝達と情報共有、コミュニケーションの橋渡し	①本人の障害特性についてお伝えしながら、本人への具体的な関わり方について情報共有を図ります。本人が適切に質問・報告・相談ができるよう、あらかじめ内容やタイミング、誰に伝えるか等について相談し、事業所と調整した内容のつとめて支援を実施致します。本人は、自分の考えや思いを適切に表現することが苦手なため、ジョブコーチが作業遂行状況を観察したり、様子を聞き取ったりしながら、本人がつまずいている箇所を洗い出し、事業所へ報告、必要な支援・対応等についてご相談いたします。	
	②ステップアップに関する支援		

ジョブコーチ支援計画

3. ジョブコーチのサポート

雇用後、Aさんの仕事は想定通り順調でした。少し難しい仕事も本格的に任されるようになってきた頃、従業員からある相談がありました。

「Aさんが作業に関しての質問や報告をしてくれないし、自分の判断で進めているときがあるようだ。」「退勤時間になり作業を終わらせるときも自分から報告できずに従業員から声がかかるのを待っている様子がある。」「梱包材を棚から取りたいときも、棚の前に人が立っていると、何も言わずその前で待っている・・・。」とのこと。

実は訓練期間で改善されたと思っていたコミュニケーションの問題は改善されておらず、雇用後も周りからの指示を待ち続ける状況だったのです。

今までのAさんの状況を踏まえ、「伝える」ことはできるのですが「どのタイミングで誰にどのような言い方で」伝えるべきかがわからないため受け身になってしまうのでは？と考えました。ジョブコーチはその対応として質問や報告の仕方や内容を業務日課に加え、質問や報告のタイミングや決まった話し方を示しました。またイレギュラーな出来事に対しては、その対処方法をジョブコーチが実際にやり方を見せて理解してもらいました。例えば、梱包材を棚から取るときに他の従業員がその前に立っている場面では、まずジョブコーチが「すみません」と言って活動の見本を見せた後にAさんにも同じようにやってもらいました。

これらを毎日Aさんと確認することで徐々に改善が見られるようになりました。

休憩 30分後	作業	KPI管理表に記入する 分室のカゴ車を見て、カゴ車の数を数える〔 7 個〕 従業員に「戻りました」と報告する 『作業の進め方』を見ながら作業を行う。新たな質問・報告事項は、メモ欄に追記する。	☒
15:00	休憩 (15分)	従業員に「休憩行きます」と報告する KPI管理表に記入する 休憩室に移動する(トイレ可) 15:13になったら、作業席へ移動する	☒
15:15	作業	KPI管理表に記入する 分室のカゴ車を見て、カゴ車の数を数える〔 8 個〕 従業員に「戻りました」と報告する 『作業の進め方』を見ながら作業を行う。新たな質問・報告事項は、メモ欄に追記する。	☒
16:30	作業終了	リーダー・サブリーダーに「ここまで終わりました」と報告し、指示を受ける。 ★作業の終わり方 今日、最後にどの作業に従事しましたか？□に入れて下さい 在庫 ☐ 分室 ☒ 【10個以下】最後まで行う 個数に関係なく、最後まで行う 【10個以上】残りの個数を数え、リーダーもしくはサブリーダーに「〇〇個残りました」と報告する ※すでに箱詰めを行っている場合は、最後まで行う	☒
	退勤	『職場でのルール』の自己評価を行い、リーダー・サブリーダーに「チェックお願いします」と言う 連絡帳を取る KPI管理表に記入する 【事務所】タイムカード打刻、井当ておつりを取る。「お先に失礼します」とあいさつする 【更衣室】着替え 守衛室前で「お先に失礼します」とあいさつする	☒

『職場でのルール』	自己評価
1 スケジュール通りに仕事をしましたか？	(はい)・いいえ
2 『作業の進め方』とメモ欄の両方を朝作業に入る前に読みましたか？	(はい)・いいえ
3 『作業の進め方』とメモ欄の通りに仕事ができ了吗？	(はい)・いいえ
4 ケガ・体調不良の時、リーダー・サブリーダーに報告しましたか？	(なかった)・はい・いいえ

修正した A さんのスケジュール (午後から)

4. 仕事以外の支援

Aさんは携帯電話を持っておらず、外にいるときに連絡を取る手段がありませんでした。就職してから電車での遅延や通勤途中で何かあっても会社に連絡を取れない状況で、会社から遅刻や欠席の連絡は必ず入れてほしいと要請を受けていました。そのため親御さんとも相談し、携帯電話の購入と使用方法を覚えてもらうことにしました。

携帯電話を川崎のショッピングセンターにある家電量販店で購入することを親御さんに伝えたところ、通勤のためにご本人のスニーカーと冬物のセーターを2枚程度購入してもらえないか？という依頼がありました。実はAさんの衣類はこれまで親御さんが購入しており、自分で買い物に行く経験はほとんどないとのことでした。

家電量販店では、事前に調べていたご本人でも操作が可能な携帯電話を購入します。購入手続きはAさんが行いました。店員の指示に従いながら書類に記入をします。手続き内容に関しては事前に親御さんと打ち合わせていたため、わかるところはスムーズに自分で記入しています。ご本人が理解できない記入欄では「これは、どうしたらいいですか？」とはっきりした口調で私に聞いてきました。必要性を感じる場面では、こんなにも自発的に質問をしてくれるのかなと感じました。仕事の場面では支援者がすぐに手を貸して助けてしまい、ご本人に「必要があるからやってみる」場面をうまく設定できていなかったかなと反省します。私とAさん、店員とで質問や確認を繰り返しながら書類を作成して無事に携帯電話を購入しました。お店を出てからすぐに開封してAさんから自宅に電話をかけ、携帯電話を購入したことを親御さんに伝えていただきました。次にセーターを買いに衣料品店へ。Aさんにはご自分のサイズと色を選んでもらい1人でレジへ行っていただきました。こんな場面でも店員さんとのちょっとしたやりとりも難なくこなしています。靴屋でも同様でした・・・。

5. 最後に

仕事しやすい環境を整えること、ご本人と職場との調整を行っていくことはとても大切な準備でした。

「コミュニケーションが苦手だからお話するのは難しいかも」と私が考えていたことは職場以外の様子に触れてみて、偏った先入観だったことに気づきました。できないから指摘するだけでなく、もっとご本人のことを理解して、Aさんが人に対して自主的に関わってみたいと思える環境を作り出すことが大切なのだと感じます。

今後も会社には定期的にフォローアップにでかけます。これからもAさんが職場に溶け込んで長く働き続けていけるように、精一杯支援をしていきたいと思います。

～コラム～

はじめまして。今年度からケアホームハウスGで勤務している山本裕太です。よろしくお願いします。

私は岡山県の田舎で生まれ、育ってきました。地元には電車やバスの公共交通機関は通っていません。そんな、山村地域で育ってきた私がこの4月から横浜で一人暮らしを始めることになりました。最初は横浜という名前にビビっていました。就職試験の時には、「こちらの方に来て知り合いはいるのか」「田舎のような人付き合いは難しいよ」と言われました。「困った時どうしよう」「近所の人とも仲良くしていきたいな」と不安がたくさんありました。

しかし、そんな不安はすぐに吹き飛びました。5月の中旬のお話です。アパートの隣に住んでいる方から「自炊しているの?」と自家菜園で育てられた玉ねぎを5ついただきました。アパートの近所の方々はいつも仕事帰りにお会いすると「今日もお疲れさま」と声をかけてくださいます。私は横浜に来て改めて人の温かさを実感することができました。

初めは横浜で一人暮らしをするという不安がありました。しかし、今では近所の方、職場の先輩方、利用者の皆さん、利用者の家族の方々と出会い、支えられながら頑張ることができています。これからも一つ一つの出会いを大切に、仕事にプライベートと充実できるようにがんばっていききたいです。これからもよろしくお願いします。

ハウスG 山本裕太

ノートの《映画、大好き!》



「セブン(SE7EN)」(1995年)

今年は5月には梅雨入りをしたのですがなかなか雨が降らず、水不足になったら大変なので雨乞いしなければと思っていましたが、ここに来て順調に雨が降っております。早々と台風が来たりして変な天候ですが、季節に応じたあるべき天候になって欲しいものです。ただ、ビール好きにはたまらない季節になってきており、毎日晚酌をしてビールで喉をならしているノートンです。

去年はすごいペースで映画を観ていましたが、今年に入ってからバテ気味です。細々と映画鑑賞しております。なので、今回は過去に観た映画の中からおもしろかった作品を紹介します。これまでの記事の中でもタイトルは出てきましたが、「セブン(SE7EN)」(1995)という映画です。私の好きなデビッド・フィンチャーという監督の作品です。この監督は他にも「エイリアン3」「ゲーム」「ファイトクラブ」「パニックルーム」などの作品を撮っています。最近話題になった映画では、「ソーシャル・ネットワーク」「ドラゴン・タトゥーの女」があります。この監督の当初の作品はサスペンス色が強い映画が多く、その中でも「セブン(SE7EN)」は最高のデキだと思います。

では簡単にストーリーを……

ある大都会。定年を間近に控えたベテラン刑事のウィリアム・サマセットが今日も殺人現場に出向く。そこへ都会の殺人課を希望し異動してきた新人刑事のミルズがやってきた。サマセットは彼に尋ねる。なぜこの街に来たのか？目を覆いたくなるような事件が多発するような街になぜ。

都会の中でも刑事として自分の力を示すことができると思っているミルズにはそのことばの真意は伝わらなかった。そして次の殺人事件がおきる。巨漢の男が机に座った状態でうつぶせて、大皿のスパゲッティーに顔をうずめて死んでいた。手足を縛られ、銃で脅されて1日ずっと食べ続けさせられ、最後はお腹を蹴られて内臓破裂で死んでいたのだ。その後、最初の事件現場を調べていたサマセットは壁に「gluttony(大食)」と書かれた文字を見つけた。これは基督教の教えの1つである「七つの大罪」の1つを指していた。他に「pride(傲慢)」「嫉妬(envy)」「憤怒(wrath)」「怠惰(sloth)」「強欲(greed)」「色欲(lust)」の6つの大罪がある。この事件は続いていくことを示唆していた。定年前の自分には荷が重いと感じたサマセットであったが、ミルズと共に犯人を追いかけていくことになる。そして次の事件が起こった。現場の床には「強欲(greed)」の文字が記されていた。サマセットとミルズは犯人に辿り着けることができるのか……。

サマセット刑事はモーガン・フリーマン、ミルズ刑事はブラッド・ピットが演じています。2人ともハリウッドを代表する名優。加えてこれまた名優のケヴィン・スペイシーが憎らしい犯人役を演じています。異様な雰囲気スタートし、最後までずっと画面にひきつけられた映画でした。とても有名なサスペンス映画ですが、まだ観ていない方はきっと満足するはずです。ぜひご鑑賞下さいませ。



振り返る道向かう道④ 小学校から通所施設に

小林 邦子

最重度自閉症の息子俊文は47歳になった。世間の理解は得られなかった幼児期少年期。東やまた入所という大きな幸運をいただいて16年。ようやく適切な支援指導をいただくようになり、現在は穏やかな日々を過ごしている。母親の私は高齢者の域に入って改めて振り返る過ぎゆきである。

療育センターで一緒にグループの田村紀子さんは、子供の過ごす場所に困っている親たちのために様々な遊び場を考えてくださっていた。俊文が学校に行っている時間は、ひと息つけるようになったが、休日は一日中追い回すことになり、遊ばせる場を模索するばかりであった。横浜の開港記念日だったと思う。この日は横浜市立の小中学校はすべて休校になり、ありがたくない休日である。私立の学校は普通授業なので、田村さんは母校の体育館を借りる交渉をされたという。田村さんの母校とは超一流のお嬢様学校、フェリス女学院である。私にとっては、まぶしいまでの学校で、田村さんに感服するばかりであった。当日は10組近くの母子が参加し、広い体育館でボール遊びをした。親子でこれほど遊べる場は初めてのことで楽しかった。放課後バレー部の部活が始まったが、「大丈夫、体育館の半分を借りているのよ」と、田村さんは平然として体育館の半分で遊ばせてくださって、無事に乗り切った休日であった。

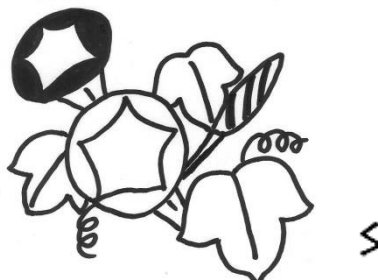
俊文と同時に特殊学級に入学したのは、ダウン症のT君、小児療育センターに通っているM君の3人だった。M君は入学と同時にことばが出始めた穏やかな性格のこどもだったが、T君は活発な元気なこどもである。とても世話好きで俊文の面倒をみてくれるのだが、俊文にはわずらわしいのか毎日泣かされている状況だった。ある日、それまで人に手を出すことのなかった俊文はたまりかねてT君を叩いたらしい。俊文の方が体力を持っていたのだろう、T君は泣き出したという。それ以後2人の力関係が逆転したようだ。俊文はここで人を叩いて自分を守ることを学んでしまった。いずれどこかで覚えることだったろうが、これが大きな俊文の岐路になってゆくのである。

入学してから俊文は「ガッコー、ガッコー」と言うようになった。「学校に行こうね」と声をかけると、「ガッコ、ガッコ」をくり返している。ある日「ガッコーにいい」と「にいい」の発音を付けた。俊文は少し考えて「イコー」と付け足すように言い、慌てたように自分の口をふさいだ。ついに言ってしまったという表情である。「ガッコーに行こう」は俊文の今まで出た一番長い語である。そして、俊文が濡れ縁に腰を下ろして、

外に飛び出そうとする構えをみせていた時、プロペラ機が2機頭上を過ぎて行った。俊文はずっと見上げていたが、私と目が合うと「ふたつ」と嬉しそうに言った。「ふたつだね。飛行機ふたつだね」と言う満足気な顔をした。「ふたつ」の語もこの時のみである。夜はピクチャーパズルや、ブロック、ミニカーで遊んだ。「こどもカラー百科事典」という厚い8冊の本が気に入っていて、好きな写真のある頁を広げたままジッと見つめている。パズルは外側からはめてゆき、最後に真ん中をはめる。ブロックは数字とひらがなのものをじっとみつめながら仕分けて遊ぶ。何とか知恵につながらないかと声をかけるといやがる。数の把握は12まで分かる。菓子を12ヶ与えると、4ヶずつ3ブロックを作り、ひとつ食べると半端になるので2ヶ食べて5ヶずつ2ブロック。次は3ヶずつの3ブロック。そして4ヶずつの2ブロックとする。数の遊びをしているのだが、ここからは進歩がなかった。

通学路の裏道の途中に雑種の中型犬を飼っている家がある。犬小屋を路地に置いているため俊文は犬の前に屈んで犬をかまって暫く遊ぶ。私は犬がこわいので離れたところで待っている。ある日、突然その犬が「ワン」と鋭い声をあげ、俊文が泣きながら逃げてきた。気づかなかったが子犬が生まれていたのである。俊文に噛まれた痕はなかったが、おそらく軽く噛まれたのだろう。それからはその道をいやがるようになってしまったのでバス通りを歩いたが、道幅が狭くて危険である。通学に車を使わないつもりだったが、車で通学するようになってしまった。

購入した車を庭に置いたためにブランコは廃棄した。幼児期に散々遊んだブランコだが、替わりに停めておく車には、直接ぬれ縁から足をかけて車の屋根に登ることができる。トランポリンが大好きな俊文は、車の上をトランポリン代わりにして跳ねて遊ぶようになった。車の上で歓声をあげながらビョンビョンと跳ねている俊文を、どうして止めないのかと近隣の人々は思うだろうが、俊文がどこかに逃げ出すよりは親として助かるのである。車はまるで虎かライオンが乗ったようにへこんでしまう。出かけるときは車内から持ち上げて元に戻すのだが、当時の軽自動車の内装は簡素だった。くり返しているうちに屋根にひびが入り、雨漏りするようになってしまった。惜しげなく俊文を遊ばせるために、安い中古車を買って2年ほどで廃車するというマイカーの状況を続けた。



「雨漏りする車なんてボクんちだけだねえ」と兄がつぶやいた。兄は幼い頃より他の家とは違う自分の家を気にしていた。幼児期、近隣はどこの庭にも小さな花壇を作って花を咲かせていたが「ボクんちだけ花が咲いていないねえ」と寂しがった。俊文を追う毎日で親には心のゆとりがなかったのである。兄は近くの空き地からタンポポを引き抜き、懸命に庭に植えこんでいた。向かいの家にSさんが転居してきて、手入れは要らない鶏頭や千日紅の種を親切に蒔いてくださって、ようやく家の周囲に花が咲くようになったのである。

小学2年生の後半となって俊文はさらに多動となった。教室からの逃げ出しや、2階の教室の窓から今にも落ちるばかりに身を乗り出しているのに、担任は目が離せず、他の11人の児童の教育が思うようにできないという悩みを聞かされる。もう次の年度より通所施設に移るしかないと感じた。児童相談所で判定を受け、横浜市立の通所施設ひのき学園で面接を受けて3年生の4月から転入させてもらえることになった。

この頃、全員就学制はまだ発足していなかったもので、通所施設に移れば学籍を失うことになる。形ばかり追っても仕方ないと思いながらも、小学校に学籍を残したまま、ひのき学園に通いはじめた。

昭和49年4月より、上大岡駅前から出発するひのき学園の送迎バスに乗せる。電車、路線バスを使うとわが家から1時間半かかるが、車で30分ほどで着くので車は欠かせず有難い。あらたに頑張ってみようという希望が湧いた。ひのき学園には6歳から18歳までの園生が通っていた。運動会や遠足などのイベントでは、小学校と違って気を遣うことがなく、親としてはようやく楽な気分になれた。施設の行事などは母親たちも一緒に参加するなど、親たちの行動は活発で、特学の親たちより表情の明るい親が多いと感じた。園ではしつめに気を配ってくださって、今まで親が訓練させられなかったズボンのジッパーを下げて用を足すこと、歯みがきや箸を正確に使うことなどができるようになった。



俊文のいたずらが激しくなり、近所の庭に作られた池に石を投げ込んだり、飼われている犬の鎖を外して逃がしたりする。中型犬は怖がるのに、スピッツ程度の犬は怖がらない。鎖は首輪から外せばまだよいが、鎖ごと外すので犬にとって危険である。謝ってばかりの毎日であった。通所施設も夏休みなど、学校と同じ期間の休みである。40日もの夏休みを乗り切るのは容易ではない。私立の児童入所施設の一隅を借りて遊ばせてもらおうと、再び田村紀子さんの発案があり何組かの母と子が参加した。多動のこどもたちで思ったより手がかかったようだが有難かった。当番を決めて交替で付き添って遊ばせていただいた。俊文はひのき学園のキャンプの日程と重なって2日のみの参加で、母の私は当番を果たせなかったが、私には思いもつかない田村さんの発案から実行に感嘆した。夏休み中、田村さん母子と車で出かけ、丹沢の河原や公園などで、匡弘君と俊文を遊ばせた。親が一人で居るより助け合えることは親の力が増すのだと知った。

夏休み中、小児療育センターに通うこどもたちを、青い鳥愛児園で2泊のキャンプをさせていただける行事は有難い。夫が後樂園球場の内野指定席の券を買ってくれた。俊文にかかりきりで、普段は兄のために何もしてやれないので、兄とよく遊んでいるS君も誘っての外出である。2人はプロ野球を見るのは初めてで、ひいきの巨人軍の選手たちを間近に見せてやることができた。2泊の俊文のキャンプの終わりの日に愛児園に迎えにゆき、松阪先生や野田先生より俊文の元気な2日間の様子を聞くことも楽しかった。

兄が時折、俊文を自転車に乗せて家の周囲で遊ばせていたが、俊文は兄の自転車に興味を持った。近所の方が使わなくなった子供用自転車をくださったが、これが思わぬ展開となってしまった。俊文は嬉しそうに補助輪のない自転車にまたがって足で地面を蹴りながら進めていたが、すぐに漕げるようになった。私は自転車に乗れないので、車で追うことになる。始めのころ俊文は途中で降りてきて車に乗り、自転車を車に積んで家に戻っていたが、慣れてくると1時間ほど走りまわって家に戻るようになった。実に道がよく分かっている。また自転車で公園に行きブランコ遊びをする。ブランコが振りきれればかりに立ち漕ぎをしている様子に恐怖が湧き、私は息つくひまも無い。家に一旦戻った時は私も休憩が欲しく、何とか俊文を家にとどめたく、次第に菓子を与えて時間稼ぎをした。疲れが先に立ち虫歯の心配をする心のゆとりがなかった。若くして前歯の欠けてしまった俊文だが、これも大きな後悔の1つである。



田んぼのたより

横浜やまびこの里 運営方針をうけて

事業第1部部長 関水 実

前号のこの欄に塩谷理事長が掲載した法人事業の4つの方針を要約・再掲してみると、①重度の人たちの施設入所支援、ケアホーム事業を基幹事業と位置づけ、一定量を確保する。入所施設としての生活支援機能、地域移行機能、一時保護機能を再整備して体制を強化する。②本人および家族の地域生活・家庭生活支援に向けた取り組みを新たに企図し、ヘルパーセンターの事業を中心に、生活支援の観点から居宅支援を含む業務の拡充を意図する。③自閉症スペクトラム支援の視点から、中度・軽度にも対象を広げ、その比重を高める。④研究・実地研修機関としての機能を企図し、自閉症・発達障害支援の中心的役割が担える機能の充実を図るというものです。

■レジデンスの再整備と地域移行を考える。

今回は、第1のテーマ、入所施設の機能再整備と地域移行について現状と今後について考えてみます。

□東やまたレジデンスの当初の設計思想と現状

東やまたレジデンスは、1996年の開所ですから今年ですでに17年になります。レジデンスを設計した段階では、7つのユニットそれぞれで生活のイメージを作り設備や居室の配置なども、それに基づき計画されました。

たとえば、1階のAユニットは、自立度が高く、ユニットから直接通所、通勤ができる想定ドアを設置し、居室もパーテーションで仕切れ、個室にも共同生活も可能なフレキシブルなものにしました。また、Cユニットは、さらに2階と3階ではっきり区分けして、3階は2人で生活して、所帯を持つ練習などの想定もしていました。自閉症の入所施設として、強度行動障害への対応から自立度の高い人まで、幅広く想定して7つのユニットを設計したわけです。

しかし、現在は自立度が高い人たちの利用を想定したユニットが運営上の負担になっています。なぜなら、レジデンスの利用者が重度者のみに偏った結果、独立性を重視したユニットが逆に職員の手が回りにくい、使いづらいユニットになってしまっています。レジデンスの機能の再編を考えた場合、この独立性の高い・小規模な生活空間をどう再活用できるかもポイントになります。

□そのままケアホームに出られる人は居なくなった。

レジデンス開所後数年は、ケアホームへの移行が進み、強い行動障害を持つ人たちもケアホームにでていました。しかしその後、ケアホームの運営上の赤字の問題が解決できず、ケアホームの新設はストップしてしまいました。一昨年からケアホームが徐々に新設され、レジデンスからもケアホームに数名移りました。しかし、それは比較的軽度な人たちに限られています。行動障害を持つ人への対応ができるケアホームの設計思想ではないからです。しかしそういう形でケアホームにでられる人はもうレジデンスにはいない状況です。

□レジデンス待機者の状況

一方、レジデンスからのケアホームへの移行に伴う空席に対する公募には、100名を超える人たちの応募があり、その人たちが置かれた状況は、深刻なものです。本人が強い行動障害をもち、かつ親が高齢化していくつかの施設の短期入所をたらい回し状況で利用している人たちも増加しています。そして、短期入所の利用も逼迫した状況が続いているのです。

□横浜市全体の問題としてとらえる必要があります。

自立支援法から総合支援法と名称が変わっても、変わらない問題があります。それは、地域の行動障害を持つ人たちの滞留状況が悪化していることです。その一因に障害程度区分制度があります。現在の制度では、障害のサービスの支給量は障害程度区分で決まります。しかし、同じ障害程度区分でも、行動障害系の人と、そうでない人では処遇の困難さは全く違います。しかし、たとえばケアホームの運営上では、その大変さの違いはサービス支給量としてはまったく反映されません。ですから、同じ障害程度区分なら行動障害を持たない人がケアホームで受け入れられやすいのはある意味当然のことなのです。ですから市内にケアホームが毎年40カ所以上できても、行動障害を持つ人たちはそこを利用できないことが多いのです。

横浜市は、入所施設の建設の計画を持たずに、ケアホームの増設で障害の人たちの地域生活を実現しようとしているようですが、そうだとすれば余計に行動障害をもつ人の滞留の深刻化の問題を座視はできません。これは私たちだけで解決できる問題ではありません。横浜市が行政としてイニシアチブをとって解決していく必用がある課題です。

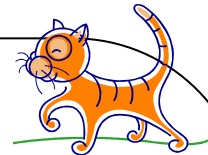


□レジデンス機能の再編成に向けて

最初の法人の方針に戻ると、レジデンス機能の再編成は、入所施設としての生活支援機能、地域移行機能、一時保護機能を再整備して体制を強化する点に整理されています。

①生活支援機能、つまり、レジデンスの施設入所支援機能として、重度で行動障害を持つ人でかつレジデンスで生活をする必要がある人＝ケアホームに移るより、入所施設の人や物理的環境の集積が必用とされる人たちへのサービスを提供する。②地域移行機能、レジデンス利用者で行動障害への配慮があるケアホームなら生活可能な人に対しては準備を進めて計画的な移行を実現しなければなりません。それと平行して17年前のレジデンス開設当初描いた設計思想とは違う、現在の横浜の成人自閉症の人たちの置かれた状況に考慮したレジデンスを再設計して、それに基づく実践をしていく必要があります。

よこはま三歩



はじめまして。今年4月から東やまたレジデンスで働いている大石晋平と申します。よろしくお願いします。

私は静岡県出身で、大学生活は東京で過ごしました。そして、横浜へ引っ越してまもないためまだまだ横浜のことは分からず、休みの日は横浜を探検しています。

そんな私が紹介する場所は日産スタジアムです。

日産スタジアムは横浜市港北区にある日本最大の陸上競技場で、横浜Fマリノスのホームスタジアムです。日本代表の試合も開催され、ワールドカップの決勝戦が行われたスタジアムでもあります。私は静岡県出身ということもあり、サッカーが大好きです。休日にはよくサッカーをしたり、観戦しにこのスタジアムを訪れています。ゴールが入ったときの大歓声には鳥肌が立ち、とても興奮します。また、サッカーに興味がない方でも、コンサートやフリーマーケット等、様々なイベントも開催されています。スタジアム周辺ではウォーキングもでき、スタジアムに入らなくても楽しめることがたくさんあります。

先日、日本代表がワールドカップ出場を決めました。これを機にみなさんも日産スタジアムへ足を運んでみてはいかがでしょうか？

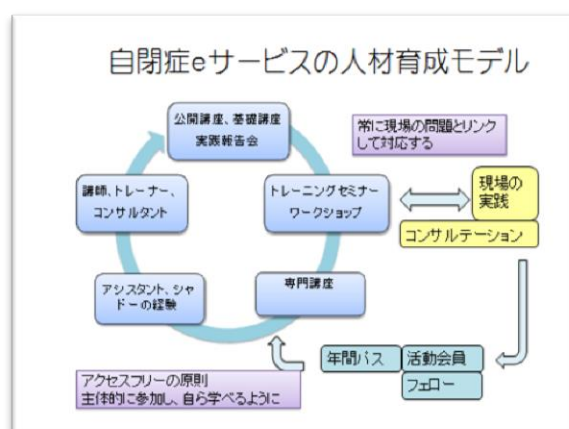
東やまたレジデンス 大石晋平



疑問符だらけの現場用語集 (50) 自閉症 e サービスの戦略

自閉症 e サービスの人材育成システムの概要を前回お伝えしました。その基本戦略は、自分たちで運営し、率先して学び、学んだことを現場実践に生かしそこで得た知見やノウハウをみんなで共有する、研修と現場実践を循環させる持続的な育成システムを構築することです。そのための仕掛けはすでにお伝えしましたが、それを機能させるためにはくいつでもアクセスできるようにすることと、＜実際の仕事に活かせること＞がポイントになります。

アクセスフリーとは、私たちの持っているパソコンやタブレットがインターネットにすぐにつながるように、「勉強したい」「聞いておきたい」「見学したい」「教えてほしい」という現場の求めにすぐに対応できるようにすることです。アクセスの方法がわからなくても、google や yahoo のような機能を e サービスが持つことで、すぐに情報や人材が引き出せる状態を作ります。



そして、研修が実際の仕事に活かせるように、現場実践に直結するテーマを人材育成プログラムでは積極的に取り上げるようにします。講演会やワークショップで紹介された支援ツールは各現場に持ち帰ってもらい、その使い勝手をフィードバックさせ、より機能的なツールを開発するようにしています。こうして、現場第一線に立つ支援者や家族らが自閉症 e サービスにどんどんアクセスし、そこで自由闊達に情報交換や意見交換をおこない、それがまた新たなアイデアや人的ネットワークを創造する契機となる。そういう発想が e サービスの人材育成事業のベースにあります。

これまで、自閉症支援のフィールドでは、専門家や研究者と呼ばれる人たちが積み重ねてきた専門知識やアイデアを現場に伝授する（伝授してもらう）スタイルが強かったと思います。「私たちは〇〇療法をやっている」とか「〇〇先生が紹介した〇〇というやり方をするんだ」といった語り口です。しかしながら、例えて言うなら、専門家や研究者が性能のいいパソコンを作ろうと研究開発に打ち込んでいるのとは違って、自閉症 e サービスはパソコンをみんなが使って生活が豊かになることに関心があります。プロのアスリートのように自分の専門スキルを高めることに専心するのではなく、e サービスは市民の誰もが楽しめるスポーツの普及に力を注いでいるのだと言えます。自閉症 e サービスの「自閉症支援を生活のすみずみに」という標語はそういう趣旨です。

＜自閉症 e サービス代表 中山清司＞

自閉症児の親も

一日にしてならず。

★momoeさん紹介★

知的障害のある人の地域生活支援をする特定非営利活動法人の理事です。首都圏通勤圏にある某市に夫と夫の母親(要支援 2)、某病院機構事務方に就職した長男と生活介護事業所(通所)5年目・23歳で知的障害と自閉症がある(療育手帳で最重度、障害程度区分 6)の次男と暮らしています。

ペンネームは
momoe

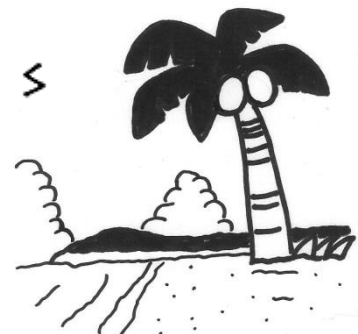


次男が落ち着いているときの家族の日々 の巻

2012年12月26日 私が4年前からヨガを教えてもらっている方(40代半ば、女性)の弟さんが精神さんで、何年もおうちで「引きこもって」いたそうだが、少し前から私の家の近くの就労継続B型を利用し始め、「仲間ができて安心して通える」と言っているとのこと。私が何回かヨガの教室を早退するというときにちょこっと「障害のある子がいる」といったのを覚えていて、私が早めに教室について2人きりの時に「実は弟が引きこもっていて、どこかよいところがないか探しているけれど、ネットだとなかなかヒットしない」とおっしゃったことに情報をいろいろ提供していたので、安心して通えるところがあったことをとてもうれしく思う。

2012年12月27日 私が掃除機をかけていたら、次男がやりたいといってかわる。飼っているセキセイインコは掃除機が嫌いなのでバタバタと暴れる。その時に舞う羽毛を次男は掃除機のヘッドを外して掃除機で器用に吸い取る。

2013年1月1日 恒例の元旦散歩。今年も隣の市の海のほうへ歩いていく。海までいけば富士山が見えることは当たり前なのだが、この散歩で思いがけないところからも見えることが分かる。谷戸の底なのだがちょうど近くの山や遠くの山の切れ目になるのだろう。冬の散歩の楽しみがまた1つ増えた。次男の楽しみはモ〇バーガーでの遅い昼食。この日の歩数、ほぼ2万。



2013年1月2～3日 これまた恒例の私の父母と妹一家との民宿新年会。はじめての漁師さん民宿であわびの踊り焼きやマグロのかぶと焼きなどを堪能する。2日の晩は風が強く、一晩中風の音と波の音とその辺のものが動くガタガタバターンという音が気になって酒を飲んだ人以外はほとんど寝られず・・・3日の朝、それでも朝からおいしいごはんをバクバク食べ、近所を散歩。またまた美しい富士山を見た後解散！

2013年1月6日 冬休み最後ということで、ドライブに行く。うみほたるで昼食（好きなものを適当に買ってきてオープンスペースで食べる）ジェラートショップのコーヒー、揚げ物やであさりのさつま揚げ、ベーカリーでプレミアムメロンパン、たこ焼きならぬアサリ焼き・・・そのあと三溪園に寄り、冬のたたずまいを散策。それほど花や緑のない季節はバードウォッチングの方多し。ジョウビタキが地面に降りてきているのをカメラおじさんたちが狙う。その間を次男が乱入・・・しそうになるのを止める・・・

2013年1月13日 正月は激混みで八幡宮にたどり着けなかった夫が「もうすいただろう」というので、お店が開く前の時間を狙って鎌倉に行く。まだ人が少ない八幡宮内を歩く。ボタン園は心惹かれつつもパス。鎌倉野菜（ああ、ミーハーだ）を買った後、このまま帰るのももったいない、ということで江ノ島まで足を延ばす。チューリップがきれいに植えられていたのでサムエルコッキング苑にも入る。展望灯台にも上る。ふふふまた富士山。岩屋にも行き、サザエ丼、シラス丼をシェアし、おまけにファミレスでおやつまで食べて帰る。

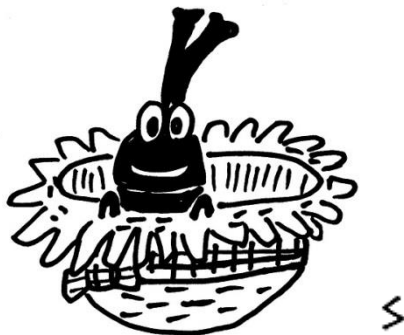
2013年1月14日 ドラマ「ATARU」のスペシャルが放送される。テーマはきょうだいのこと。アタル君のところは弟、うちは兄なので多少は違うだろうと思うが、あまりしゃべらない長男もいろいろあるだろうなと思う（ってな言葉では表しきれないものだろうと思うが）夫婦してだらだら泣きながら見ていたが、次男は爆烈低気圧のせいか寝てばかり。



2013年2月22日 次男が短期入所をしていて、何も予定がなく、まだ花粉がそれほど多くないので念願の身延線乗り鉄に出かける（ぬかりなく前日JTBで切符を購入）。東海道線で富士まで行き、普通の甲府行きに乗ってトコトコ単線で車窓の富士川とその向こうの山脈、頂上だけ見える富士山、地元の人たちのおしゃべりなどを楽しむ。この崖の向こうは本栖湖だなあ、朝霧高原だなあと想像するのも楽しい。しょっちゅう待ち合わせをするため停まる（特にこの日は対向線の急行が遅れていて20分くらい待つことがざらだった）ため帰りの中央線スーパーあずさに乗るまでの間に甲府を散歩しようと思っていたのが駅周辺だけで終わってしまったけれど、1人の時間を十分に楽しんだ。甲府駅は何やら整備されていていつの時代だかわからないが建造物ができ始めていたのでまた近いうちに見に行きたいなあ。

2013年2月26日 花粉症の前駆症状、今年は風邪ではなく全身のかゆみで現れた。去年の次男の「超多動」という症状？もこの時期から現れたのでちょっと身構える。

2013年2月27日 県の障害者施策説明会に行く。会場の総合医療会館にも1階にちゃんとともしびショップがあって、しまった、ここで食べればよかった、とりサーチの不十分さに気づく。緊急財政対策でほとんどの福祉の建物運営や補助金が俎上にのったなか、25年度は直営施設については「指定管理者制度の導入について検討」、指定管理者制度導入施設については「指定期間内なので検討期間」、高率補助金については「補助限度額の設定」市町村補助金については「26年度をめどに交付金化を検討」。交付金化となると「紐付き」じゃなくなるので、ちゃんと地元で「削るな！」と声をあげていかないと「お金が来ないからやらん」と言われてしまう。市単の事業も「仕分け」にのってしまった前例がある（協議会を設けて阻止したが）のでどっちにも目を光らせてないとね・・・





本棚から

「セナのまわり道」「きらきらひかる」

郷田マモウ

2009年マンやま5月号「本棚から」で『ぜんぶ手塚治虫!』（朝日文庫）を紹介してから4年が経ちます。

そんな歳月のなかでの‘my コミック最前線(?)’談議におつきあいください。

郷田マモウは、私の好きな漫画家のひとりです。

ブックオフで見つけた掘り出し物、『セナのまわり道』（双葉文庫）では、

大阪の下町に住む元ヤンキーの女の子セナが大阪のコテコテのお客さんを相手にタクシーの運ちゃんを生業としながら、悲喜こもごもとした10話の物語がくりだされます。文庫版では「ファースト・セナ」と題した5話が追記され、セナがタクシードライバーになったウラ話しが明かされ、重量感が増します。

見ず知らずの人を乗せて、目的地まで安全に送り届ける仕事のしんどさ。最近ではよく見かけるようになったけど、まだ少数派の女性ドライバーならではの苦悩、借金まみれの父親との葛藤のなかで若いセナが成長していく様が切々と伝わってきて、思わず応援賛歌を贈りたくなります。

『きらきらひかる』は、私が初めて出会った作品ですが、それが元でできたド

ラマ（深津絵里 主演）を観て、原作本に辿りつきました。最近、漫画も話題になると直ぐに映画化されたりしますが、基本的にそれぞれ別の作品である、と私は思っています。そう、漫画（原作）ならではの味わいがあるのです。

これは、なりたてほやほやの監察医‘天野ひかる’が主人公です。「理数系やったこともあり毎回楽しくネタ作りをしていた」と作者自らが評する作品は、謎の死を遂げた人々の死因を、検視と専門知識のもと探りあて、犯人逮捕の糸口をつかむスリルあふれる漫画かと思いきや、亡き人に思いを馳せ、懸命に仕事に取り組む主人公ひかるの、するどい人間観察力と自身を追い込むほどの情のむろさが読者の心を奪います。

その作品が原点となり、その後のヒット作『モリのアサガオ』（死刑についての話し）、『サマヨイザクラ』（裁判員制度をめぐる話し）、『星屑の少年たちへ』（臨床心理士）の、通称‘社会派な3部作’へと繋がります。

いずれも読後は、エネルギーを使いきった感におそわれますので、覚悟のうえ、手にしてください。

井上雄彦の『リアル』が待ち遠しい・・・西尾紀子でした。

△▼横浜やまびこの里後援会▼△

横浜市内で自閉症という障害を持つ人たちが地域で生活するためのサービスを、一つずつ作り出していく活動をしている『社会福祉法人横浜やまびこの里』の活動のバックアップを目的としています。

入会された方には「マンスリーやまた」「後援会報」をお届けします(郵送)

会員種別	個人会員	法人会員
会費	1口 3,000円/年	1口 10,000円/年
入会時期 (定時入会)	7月または1月	
会費納入方法	(ア)7月入会者 7月～12月入会者は当該年度の会費を納入し、次回からの会費は翌年の7月に納入し、以後毎年7月となります。 (イ)1月入会者 1月～6月入会者は当該年度の会費を納入し、次回からの会費は翌年の1月に納入し、以後毎年1月となります。	
振込口座 (郵便振替)	横浜やまびこの里後援会 <口座番号> 00240-3-76163	

★後援会のお申し込み・お問い合わせ★

横浜やまびこの里 後援会事務局

TEL045(591)2728

～編集後記～

たいして雨も降らず、あっという間に過ぎ去った印象の今年の梅雨でした。そして梅雨明け後は一気に夏空となり、連日暑い日が続いています。発達障害の人の中には、暑さ寒さに気づきにくく、服装の調整も苦手な方が見受けられます。こまめな水分補給や室内と室外で調整可能な服装、屋外活動の調整など、ご家族や支援者の細かい気配りが求められる季節です。みなさんも熱中症には気をつけて、楽しい夏をお過ごしください。(桜井美佳)

表紙写真 ペンネーム：国鉄福私鉄道（こくてつぷくしてつどう）
 編集 社会福祉法人横浜やまびこの里（編集責任者 小林信篤）
 横浜市都筑区東山田町 270 番地
 TEL.045-591-2728/FAX.045-591-2768
 法人ホームページ <http://www.yamabikonosato.jp/>

印刷 ワークステーション 横浜市神奈川区西神奈川 1-14-6-1F TEL.045-316-5710
 購読料 1部 15円（税込み）